

大麦特報 (第3号)

平成29年3月
富山市農業協同組合
富山農林振興センター

本年の大麦は、平年より茎数が少なく、また葉色が淡くなっているほ場が見られます。今後の生育を確保するために次の対策を実施しましょう。

- ◎ほ場をこまめに見回り、停滞水を速やかに排水しましょう。
- ◎分施の場合、追肥を遅れずに行いましょう。
- ◎一発基肥の場合も、極端に淡い場合は追肥をしましょう。

1 排水溝の点検・手直し

大麦は、ほ場内に水が停滞すると、湿害（根腐れ症状）を受け、生育量の不足、収量の減少につながります。

◎**排水溝の手直しや増設、排水口の掘り下げを徹底しましょう。**



2 追肥の実施

◎分施体系の施肥管理

この時期の追肥は、大麦の生育を回復させ、適正な茎数・穂数を確保するために重要な作業です。

追肥を行っていない場合は、3月上旬を目安に早急に実施しましょう。

施用量

**茎数 少～並
多※**

硫安 20kg/10a

硫安 10～15kg/10a

※茎数多：麦が繁茂し、土が見えないようなほ場（㎡当たり 1200 本以上）

※大麦専用基肥一発肥料(LP大麦48号)体系では、原則追肥しない。

ただし、極端に葉色が淡い場合は硫安 10kg/10a 程度追肥しましょう。

(JA や農林振興センターにご相談ください)